

オプテックス (コード 6914・東証 1 部)

業績推移(連結)

(予想数値は会社発表分。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
08.12	20,916	- 5.6	2,489	- 38.9	59.7	40.0	66.7	11.9
09.12	15,124	- 27.7	735	- 70.5	20.1	30.0	149.5	4.9
10.12(予)	17,300	+ 14.4	1,300	+ 76.8	52.0	30.0	57.7	7.5

赤外線センサの世界的トップメーカー

特色...防犯用、産業用センサの専業大手で、赤外線センサの世界的トップメーカー。自動ドアセンサでは国内 50%、世界でも 30%のシェア。

09 年 12 月期は大幅減収減益に

急激な需要減で大幅減益..09 年 12 月期は、景気後退による需要減や為替の影響(円高)などを受け、売上高が 08 年 12 月期比 27.7%減となった。事業別売上は、防犯関連事業：72 億 1,600 万円(08 年 12 月期比 26%減)、自動ドア関連事業：36 億 1,900 万円(同 31.7%減)、産業機器関連事業：31 億 9,000 万円(同 24.3%減)。防犯関連事業では、国内で警備会社、電設資材、家電業界向けなどの受注が減少したほか、海外においては主力の欧州向けを中心に緩やかな回復傾向にあるものの先進各国をはじめとした建築市況低迷などの影響で大幅な減収に。自動ドア関連事業についても、自動ドア用センサの需要が国内外とも落ち込んだほか、小売業界の投資意欲減退の影響で客数情報システムも大きく売上減。産業機器関連事業については、国内市場において三品(食品、医薬品、化粧品)業界向けの画像センサなどの需要は堅調に推移したものの、半導体・自動車業界向けが景気後退の影響で低迷。海外市場においては主力の欧州向けが第 2 四半期(09 年 4~6 月期)を底に緩やかな回復傾向にあるものの、企業の設備投資抑制の影響から前年度実績を大幅に下回った。人件費抑制や経費削減を図ったものの急激な需要減退による売上減をカバーしきれず、営業利益(6 億 2,000 万円)は同 76.8%減、経常利益も同 70.5%減となった。

今期は一転して増収増益の見通し

売上回復へ...2010 年 12 月期については、欧州向け防犯関連機器や国内向け産業機器関連、新規事業の伸長などにより、売上高が 09 年 12 月期比 14.4%増となりそう。事業別売上予想は、防犯関連事業：78 億 4,000 万円(09 年 12 月期比 8.6%増)、自動ドア関連事業：39 億 7,000 万円(同 9.7%増)、産業機器関連事業：37 億 8,000 万円(同 18.5%増)、交通関連など新規事業：5 億 4,000 万円(前期 5,100 万円)、生産受託関連：7 億円(同 15.5%増)など。このうち防犯関連事業については、RVR(リモート・ビデオ・レスポンス)事業を主力に、屋外センサを用いたソリューション提供によってハイセキュリティ向け販路の拡大を図る。また、売上回復に伴う収益率の向上が見込まれ、営業利益(12 億円)が同 93.4%増、経常利益も同 76.8%増と大幅増益の見通し。年間配当は 09 年 12 月期と同じく 30 円の予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的な方法等を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。